

平成 26 年度事業計画

26 年度において社福きたば会の今後の方向を企業拡大の方向へと決定しそのための組織
施設長、統括、リーダー、サブリーダーの人選を決めそれぞれに各自の権限、目的を明確
にした辞令を交付し同時にそれに見合う責任者手当を支給してきました。

施設長 其の施設の経営者として統率力、3つの理念実現への指導力を持つこと。

- 1 施設の経営責任者として毎月の月次決算を作ること。
- 2 利用者数目標を決め其の達成手段を考え部下を指導して目的を達成すること。
3つの理念を実際のサービスとして提供するために目的、手法、評価方法を指導して
サービスのレベルアップを行う。

ケアマネとの連携、家族との接触により問題点を把握して解決する。

- 3 守るべきコンプライアンスの遵守と徹底

統括責任者 施設長の補佐として責任を果たすべく努力する。

リーダー 理念実現のためのアセスメント表、介護計画表、評価のシステムを施設長の指
導のもと検討してより求められる介護サービスをサブリーダーとともに職員
を指導し利用者に提供する。

以上の組織体制のもと運営してきましたが指導力の不足のため十分な成果も残さず 25 年度
は終わろうとしています。

特養ささゆり苑では予定通り利用者の確保と施設内での癒し、安心のある生活を提供す
るため各ユニットリーダーのもと職員一同が邁進してまいりました。其のなかでの新しい
介護知識、技術の研修、開発のためにデジタルミラー、ビッグパッドを購入し社福きたば
会の、理念実現の具体的手法の開発を 26 年度は職員一同の協力のもと進めてまいります。

社会福祉法人きたば会 26 年度の周辺環境の変化予測

26 年には和歌山市桑山のデイサービス空の近辺に社会福祉法人寿恵会が 120 人規模の
デイサービスを計画しています。

27 年 4 月には和歌山市岩橋地区にきたば会としてデイサービスを開設する予定です。
高齢化社会の進む介護サービス業界には多くの企業が参入し利用者獲得競争の時代へ
と進んできます。そして其の競争はサービスのレベル競争になってきます。
進む方向は科学的介護、エビデンスのある介護、の実証される介護サービス、例えば
今特養ではオムツゼロ運動と言われて利用者にあの不快なオムツをはずしていただける
介護を目指しています。おむつゼロ施設の実現が明らかになってきました。この事は、こ
れまでの福祉的な介護の発想からは出てきません、この考えの主導は医療系の発想、病氣
を治す、障害を治していく、老化を防ぐという思想がこの介護業界にも浸透しつつあるこ
とを示しています。今後おそらく五大介助のお世話型介護から五大介助の原因を追究し改

善、予防への方向へと進むと思えます。このような時代に対応するべくきたば会も組織を作り其の実現を目指してきていますが周辺の状況から一日も早く 3 つの理念を提供できる態勢を持たねばなりません。26 年度はこの様な状況の中で目的とするレベルのせめて 60%までやらねば今後のきたば会は存続できないような大変重大な年になっています。

しかし過去の医療業界のように病気は治ったが病人は亡くなられた、というような科学的介護でなく今までの福祉精神を持ち続けながら介護保険制度の中で個人の肉体、精神の老化を予防、改善できる介護、個別介護計画を目指さねばなりません。それには其の目的を達成するための社福きたば会の統一した個別介護計画表の作成が重要です。

- 1 アセスメント表、癒し、やすらぎ、安心、安全、老化予防のための
- 2 それを基にした介護計画表、しかも事故の起こらない
- 3 評価の基準、介護計画の時点でその結果を予測し評価する。

介護過程の中、エビデンスのある介護システムを作ることを本年度の第一目標とし期限は 26 年 4 月。その後、介護過程の実践による実行力の確立を 27 年 4 月までの期限を決めて行います。更に施設長として利用者確保の手法を試行錯誤しながら進めていきます。以上、難しい計画ですがこれができるかできないかで、きたば会の未来が決まります。

平成 26 年 2 月 10 日
社会福祉法人きたば会
理事長 北波利雄